

地域特産種量産放流技術開発事業（要旨） （イタヤガイ）

勢村 均・道根 淳*・常盤 茂*

I. 種苗生産技術開発

1. 母貝の人為的な成熟制御

- 1) 大量培養可能な餌料のうちで、母貝の成長や成熟に適した餌料種類が判明した。
- 2) 成熟が進行する水温帯は、17～20℃の間であった。
- 3) 卵の脂肪酸組成は、餌料中の脂肪酸組成の影響を受けないことがわかった。

2. 飼育水中の細菌と、幼生の成長や生残との関わり の究明と飼育安定のための技術開発

- 1) 幼生飼育が安定するためには、飼育水中の細菌相が安定することが必要であった。
- 2) 抗生物質は、少なくとも飼育水中の細菌の属組成は変えなかった。
- 3) Nannochloropsis が分泌する物質が、飼育水中の細菌相を一定の組成に保つのに有効であった。
- 4) 幼生に病原性を持つ、Vibrio 属の菌が分離された。

II. 中間育成技術開発

1. 付着稚貝の効率的な飼育方法の開発

- 1) 防疫的な見地から飼育過程を見直すことにより、大量斃死やせん毛虫の混入がほとんどなくなった。
- 2) 中間育成袋内の環境が明らかになった。

III. 資源添加技術開発

- 1) 母貝集団の形成により、従来天然採苗が不可能であった区域で採苗できた。
- 2) 養成区域に出現する浮遊幼生は、ほとんどの場合、母貝の初期の産卵に由来すると推定された。
- 3) 天然採苗量は、母貝量よりも年々の浮遊幼生出現時期の水温や流況に大きく左右された。

*島根県栽培漁業センター

**詳細は、「平成5～9年度地域特産種量産放流技術開発事業(二枚貝グループ) 報告書」を参照。